徳島県支部

平成27年11月3日(火)、徳島市（阿波観光ホテル）において、平成27年度日本大学通信教育部徳島県支部総会を開催いたしました。

総会の議題は次のとおりでした。

(1)平成26年度事業報告および決算報告
(2)会計監査報告
(3)平成27年度事業計画（案）および予算（案）審議
(4)第44回定期総会の報告について
(5)四国ブロック総会について
(6)その他

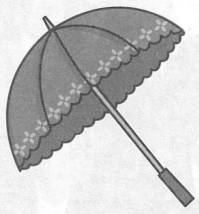
1号議案については、支部長から報告いたしました。2号議案については、出席者全員の監査を受け、適正に執行されているとの承認を得ました。

3号議案についても原案どおり全員一致で承認されました。

4号議案については、土井支部長から報告がありました。

（文責　土井　榮次）

三重県支部総会開催のお知らせ



■日時
平成28年10月30日(日)
11時～12時

■場所
三重県熊野古道センター

（文責　大形　弘）

神奈川県支部からのお知らせ

校友の皆様にはお元気にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は校友会の活動にご協力を賜り有難うございます。

校友の皆様には、通信教育部をご卒業され、現役でご活躍の方、仕事を全うされ今は悠々自適に過ごされている方もいることと存じ上げます。

尽きましては、神奈川県支部では校友会の会員が少なく活動が停滞気味でいます。本間支部長が努力されておりますが参加して下さる会員が増えないのが現状です。皆様のご協力のもとに会員を増やしたいと思っているところです。校友会に興味のある方が集まって頂き校友会を盛り上げたいと思います。校友会に参加して下さる方一人でも二人でもご協力をお願いする次第です。

全国に51の支部（各県）が有り活発に活動をしております。関東では8支部が有り（神奈川県支部含む）各々活動をしております。

校友の皆様の活発な行動に期待し神奈川県校友会に積極的に参加して下さることを期待しお待ち申し上げています。

日本大学通信教育部
神奈川県校友会
支部長　本間　道明

中国世界遺産観光
黄河流域王朝の歴史をめぐる旅

副会長　山本　良吉

我が市原市は中国との国交回復を記念して市民訪中団を昭和53年に結成、その後市原市長や県会議員を団長として数次にわたる訪中を繰り返し、市政の中心メンバーを筆頭に民間外交の役割を果たして来ました。市長以下、市の指導的なメンバーが中国の天安門の観光や中国要人の住む中南海の釣魚台大飯店に宿泊することが出来る等、特別な体験をさせていただき、また、その間に要人との交歓も行われ日中友好の務めを果たして来ました。今回の第27回目の訪中団の行程は、黄河の流域に開けた王朝の歴史をめぐる西安・洛陽・鄭州の旅であります。途中、山門峡函谷関、少林寺も見学する予定であります。

平成27年10月16日の早暁5時に集合場所である市民会館に集まり、貸し切りバスにて一路成田空港より北京に向かって出発しました。北京空港で乗り継いで西安空港に午後4時30分に到着致しました。このままホテルに入り、西安料理の夕食が用意されており6時より夕食会が開催されました。

翌日10月17日は早朝6時起床、7時半出発、西安郊外にて始皇帝陵と兵馬俑坑博物館の観光、夕刻大雁塔、華清池見学、晩餐は8時半よりディナーショーで宮廷料理・玄宗皇帝や楊貴妃が楽しんだと言う唐時代の舞踊や歌舞音曲いろいろ取り混ぜてあり、青い目のダンサーたちも加わって、大いに宴を盛り上げてくれました。

翌日は高速鉄道にて山門峡へ。時速300キロで走る新幹線で、西安から山門峡まで1時間20分で着きました。この後、函谷関に行き天下の険の見学を致しました。

19日は洛陽観光、世界遺産の龍門石窟、鄭州に行き少林寺にて武術ショーの見学。

10月20日は、7時半ホテル発、禹王台、午後から黄河遊覧区へ移動、その後日中友好の記念碑と植樹の見学と記念撮影を行いました。

この黄河の奥深くにあって、日中友好の証として2004年1月24日に第20回訪中団の記念碑、記念植樹の施行がなされた場所であります。植林された木は大きく育っており、記念碑を水で拭いて「久闊を叙した」ものであります。

この日はレストランにて河南省旅遊局の要人である副所長・何琳さん他を招いて交流パーティーを行いました。

翌10月21日は5時50分起床、7時鄭州発空路北京に向かいました。この後日本に帰国の行程となり、6日間の旅は完結になりました。

西安は中国西北地区の最大の都市であり、秦・漢・唐の三つの強大な王朝を含む13の王朝がここに都を置き、東西の交通をつなぐ要衝として古代シルクロードは出発点としてここから西へと旅立つのであります。この地は豊富な文化遺産もあって、アテネ・ローマ・カイロと共に「世界四大文明の古都」と呼ばれているところであります。洛陽は紀元前11世紀、周王朝が国都を建設してから9つの王朝が都を置いたところであります。鄭州の歴史は古く、殷の時代より商業都市として栄えてきました。今から3500年前、商代前期黄河文明の発祥地であり城壁、住居跡や井戸、陶器の窯跡、青銅器鋳造所等が発見されております。過去3000年の間に何百回もの氾濫を繰り返してきた黄河の展望を眺める様は圧巻であります。

以上が旅の行程の全てであります。私はこの旅に参加して、紀元前221年に春秋戦国の世を統一した「秦の始皇帝」の王朝が開始されたことにつき始皇帝は13歳にして即位、爾来36年の長きに亘り、中国全土の支配者、初代「始皇帝」として万里の長城の再編築城や新皇居である阿房宮の造営、始皇帝陵の築造、地下宮殿「兵馬俑」の築造等に生涯をかけ70万人以上の人民を動員し続けて築き上げた結果だと伝えられます。この後の王朝は、漢、隋、唐、宋、元、明、清、そして現代の中華人民共和国と続くのであります。

遺跡見学の折、兵馬俑坑に入り、中を見学してみると、始皇帝の死後の軍隊を模して兵士や軍馬、戦車が整然と並んでおります。紀元前3世紀の時代には殉死の風習があり、この始皇帝の時代以前に殉死を採用した結果有能なる軍人兵士が突然いなくなり、国力が大いに低下し国家の疲弊を招いたということであります。この為始皇帝は、遺言によって自分の死後は地下の軍隊を埴輪にして埋葬したのであります。

また、始皇帝は不老長寿の薬を求めて蓬莱の国日本に「徐福」を団長とする使節を送りました。晩年になり水銀にも関心を示しその水銀を不老長寿の薬と思い込み、少量であるが飲んでいたようであります。このような史実からすると、長生きできるはずはありません。雄大なスケールと強大な軍事力を誇った大秦帝国ではありましたが、民衆の不満は頂点に達し、脆くも始皇帝死後数年で滅亡するのであります。教訓として1人の国王の間違いが全て人民に及び、とてつもない無駄と不幸の連鎖が襲い掛かって来るのであります。第2次世界大戦で完膚なきまでに叩きのめされた日本の戦前の姿にも共通の点が現れております。指導者は失敗してはなりません。事情をよく調査し、懐を深くして終生平和に徹する考えの上に立たなければ指導者になる資格はありません。

この5泊6日の旅を通して、中国の発展、歴史の一端を学ぶことは我が人生において至福の時間を過ごせたことになると思います。これからも元気で人生の旅を急がず慌てずに続けたいと思う次第であります。

大分県支部

平成28年1月23日(土)大分市こつこつ庵にて、平成27年度支部総会を開催しました。

出席者7名

湯浅支部長の挨拶のあと議事に入りました。

〔議事〕
①平成27年度活動報告
②平成27年度会計報告
③平成28年度活動（案）
④九州ブロック大会開催にむけてのとりくみ

今年度の九州ブロック大会は10月22日(土)に大分県日田市で開催予定となっています。支部においては、前年引受をされた佐賀県支部と連絡を密にとりながら、ブロック大会を盛会に終えることができるよう会員の意志統一を行いました。

また今回は新規会員が2名参加され今後に向けたよい取り組みとなりました。

（文責　中屋敷　裕一）

お詫び

会報第88号（1月1日）にて栃木県支部総会報告記事に写真が誤って掲載されました。訂正の栃木県支部の写真を掲載致します。茨城県支部と栃木県支部の皆様には大変失礼しました。訂正とお詫びを申し上げます。今後このような事の無いように注意を致します。

広報部長　師田袈裟茂